【別紙 2】

審査の結果の要旨

氏名　　原　尚子

本研究は、原発性リンパ浮腫の病態と、原発性リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術の適応を明らかにするため、後方視的に調査を行ったものであり、下記の結果を得ている。

１．原発性リンパ浮腫の患者では、外見上明らかなリンパ浮腫以外にも、リンパ管奇形、乳糜胸水、乳糜腹水など、種々のリンパ系の異常が併存することがあった。また、MRI にて胸管の形態を評価すると、胸管像の欠損、胸管の蛇行などの異常が認められることがあった。
２．乳糜胸、乳糜腹水、乳糜尿など、リンパ浮腫以外のリンパ系併存症をもつ患者の割合はリンパ浮腫の発症年齢が 1 歳未満の群で 75%、1～10 歳の群で 41.7%、11～35 歳の群で 12.5%、36 歳以上の群で 4.2%であり、原発性リンパ浮腫の発症年齢が低いほど高率で、発症年齢が高いほど低率であることが示された。
３．リンパ管静脈吻合術後、リンパ浮腫の発症年齢が 1～10 歳の群では患肢周径が有意に増加していたが、11 歳以上の群では患肢周径が有意に減少していた。
４．リンパ浮腫発症からの期間が長い患者においても、リンパ管静脈吻合術の効果は減弱しなかった。リンパ管静脈吻合を施行した時の年齢とリンパ管静脈吻合術の効果の関係について、2 つの間にはあまり相関はみられなかった。
５．ICG 蛍光リンパ管造影の結果とリンパ管静脈吻合術の効果の関係について、LDB stage の stage2、Stage4、*no backflow* では術後に周径が減少しており、リンパ管静脈吻合術の効果があると考えられた。しかし、*distal backflow* では、約半数でしか周径の減少が得られておらず、周径の減少率も小さかった。特に、グループ B1 では *distal backflow* の患肢全例で術後に周径の増大を示していた。

以上、本論文は原発性リンパ浮腫患者における、リンパ浮腫以外のリンパ系異常の合併率、リンパ管静脈吻合術の適応を明らかにした。本研究は、これまで未知に等しかった原発性リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術の適応基準について明らかにすることで、原発性リンパ浮腫の治療法決定に重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。